

2014 7/22

No.1975

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
— 神奈川政経懇話会 —



日頃の罪やけがれを茅舟（かやぶね）に託して海に流し、無病息災を願う富岡八幡宮（横浜市金沢区）の伝統神事「祇園舟」が13日行われ、長さ約70mの茅舟が同区沖で海に流された。



視点・点描	3
「甘い誘い」にはご注意ください	
政治	4
安倍政治に広がる不安と懸念 歴史の教訓ふまえた熟議を	
社会	6
産業分散で大震災リスク低減を 国土強靱化は経済成長に貢献	
国際	8
問われる米国のイラク政策 「イスラム国」樹立で手詰まりに	
暮らし2014	10
増える「家族難民」高齢者	
広告珍談	12
～いまこそ広告すべき③ わずか3行でも……	
NNAアジア経済レポート	13
神奈川景気データファイル	14
神奈川景気データファイル	15

### 事務局だより

#### ◇横浜定例講演会

2014年8月7日(木)

13時30分～15時

崎陽軒本店 5階「マンダリン」

講師は神奈川県地震災害対策  
検証委員会座長で元東京経済  
大学教授の吉井 博明 氏  
演題は「神奈川県の地震危険  
と備え(仮題)」

#### ◇横浜定例講演会

2014年9月10日(水)

13時30分～15時

横浜ベイシェラトンホテル&  
タワーズ

講師は前駐中国全権大使、伊  
藤忠商事前会長の  
丹羽宇一郎 氏  
演題は「日中関係と日本経済  
のこれから(仮題)」

# 視点 点描



## 「甘い誘い」にはご注意を

深刻な状況と言わざるを得ない。密輸の取り締まりで不正薬物の摘発が大幅に増加している。

横浜税関などによると、国内の2013年における覚せい剤や大麻などの摘発件数は382件で、押収量は約1007<sup>キログラム</sup>。前年よりも約80件、約400<sup>キログラム</sup>も増えている。押収量が1トンを上回るのは9年ぶりだ。

ここ数年では、一度に大量の覚

せい剤を密輸する手口が目立つ。

昨年3月にメキシコから日本に海上経由で到着した製粉機には、

ローラーの部分に約240<sup>キログラム</sup>の覚せい剤が隠されていた。この量は末端価格で約168億円、薬物は乱用者が使用する約800万回分に相当するという。

覚せい剤や大麻などの不正薬物は一度使い始めるとなかなかやめられず、薬物依存に陥ってしまう。

妄想、幻覚、幻聴、不眠……。乱用を繰り返した先に、光は全く見えこない。大学生ら若者による不正薬物の使用も相次いでいるという。

もし、大量の不正薬物が出回ってしまったらと考えると、ぞっとさせられる。水際で検査や取り締まりを行う税関の重要性は高まっているのではないか。

今年6月まで横浜税関のモニターを務めた。さまざまな業務について説明を受けたが、一番興味を持ったのはやはり密輸の取り締まりだ。

特に、物流を阻害しないようコンテナ内にある貨物を取り出すことなく、検査できる大型X線装置は摘発の「切り札」になっていると感じた。装置の画像をチェックする職員は知識と経験を生かし、隠されている覚せい剤などを見つ

ける。密輸阻止の職人技のような印象を受けた。今後も摘発にその力を発揮してもらいたい。

不正薬物に関して、大きな社会問題となっていることが一つある。知らないうちに「運び屋」になっていることだ。

「外国から荷物を運んでほしい。旅費は負担しなくていい。報酬も出す」と言われ、引き受けたところ荷物の中から覚せい剤が見つかり、逮捕されてしまった事件が起きている。預かった土産から覚せい剤が出てきたという善意につけ込む悪質な手口もある。

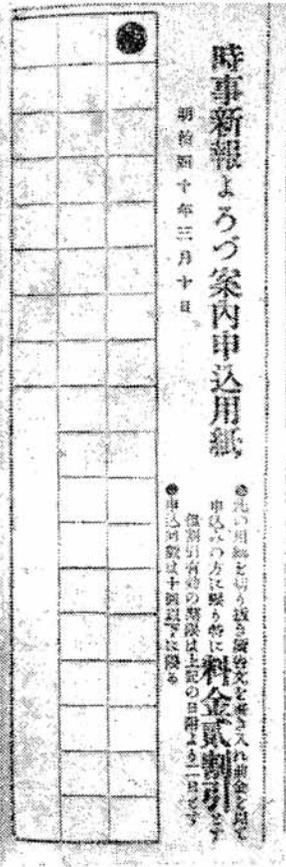
不正薬物の密輸はほとんどの国で重罪となっており、国によっては死刑になることもある。「渡航費用の心配はいらない」など、甘い誘いにはくれぐれもご注意を。

(神奈川県新聞社経済部長

石曾根 剛)

# わずか3行でも……

1907(明治40)年3月10日、時事新報は案内広告欄に図の《時事新報よろず案内申込書》を刷り込んだ。こう説明する。「この用紙を切り抜き、広告文を書き入れ、前金をもって申込みの方に限り、特に料金二割引とす。割引有効の期限は、上記の日付より二日とする。申込み回数は十回以下に限る」。



●印ともて1行18字、2

行と8字だから。計44字、その字数ならじゅうぶん意志は伝えられる。その下は広告主の住所・氏名だろう。当初、ひらがなのみで掲載されたが、すぐ漢字も併用された。

掲載料はいかほどだろう。時事は「3行1件が30銭」。その頃、

たと書いたが、はたしてそうか。案内広告が報知から始まって2年後、大阪朝日に「報知新聞の真似ぢやないが、貴紙にも職業案内を掲げてほしい。関西の新聞はいまだに掲載されていない」と読者から投書があったという。おくれた

というものの、案内広告が掲載されたことはいまでもない。報知から7年後の04(明治37)年、各紙の発行部数(万部)や広告料金(1行)の記録がある。報知は14万部―45銭。東京朝日9―40。大阪毎日20―42。読売15―40。貿易新報1・6―40。中京報知3・5―20。山陽新報1・5―

25。福岡日日1・5―40。河北新報1・2―20。芸備日々1・3―

20。北海タイムス1・2―40。この頃、東京では10万以上、大阪では15、地方では1・5万以上が有力紙と評価されたという。そのうち広告収入は東京15社で300万円。広告と購読料はほぼ同率。大阪は4社で広告は200万、広告は55%。地方紙は購読料が多くを占めた。

当時、もつとも広告掲出量が多いのは化粧品で6,899,012行、薬品・雑品・書籍とつづいて案内広告は765,519行。登記や決算発表とほぼ同じ行数である。

はて、「よろず案内広告申込用紙」でどの程度の申し込みがあったのか、知らない。

(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住) (図)「時事新報よろず案内広告申込用紙」・1907(明治40)年3月時事新報掲載